

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成27年10月29日(木)公開授業Ⅳ
 生徒 2年4組 男子18名 女子16名 計34名
 指導者 大森 啓睦

- 1 単元名** 兼好法師から人生訓を学ぼう
 中核教材：「仁和寺にある法師」―「徒然草」から
 補助教材：「徒然草」第35段 他

2 単元について
(1) 教材について

本単元では、学習指導要領「読むこと エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。」に重点を置いて指導する。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。」を関連した活動として位置づける。

単元を貫く課題解決的な学習として「兼好法師から人生訓を学ぼう」を設定した。そのため、本文中に表れたものの見方や考え方、描写から筆者である兼好法師の、ものの見方や考え方を読み取るとともに並行読書を行い、他の章段の中から好きなものを選び、自分が兼好法師から学びとった人生訓について書くことで、筆者の思いに共感し、自分自身に反映させるとともに、「思考・判断・表現する力」を身につけさせる。

小学校との系統性としては、小学校第5学年及び第6学年では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア

(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。」の発展的な学習として位置づける。

(2) 生徒について

第1学年では「いろは歌」「竹取物語」「故事成語」などで、いにしえの人々の考え方や思いにふれてきた。第2学年では「枕草子」で作者の四季に対するものの見方や感じ方に触れ「My 枕草子」の制作に取り組んでいる。いにしえの人々の感じる四季と、自分自身の感じる四季の趣と比較し、共感する部分や相違点について学んできた。本単元では、さらに作者の描くものの見方や考え方を読み取り、古典に親しむとともに、「兼好法師から人生訓を学ぼう」という学習活動を設定した。

日常的に「考えるため」「話すため」の書く活動を行っている。さらに、ペアトーク等を取り入れ、話をするための手だてを踏んで自信につなげている。主体的な学びの姿勢がやや不足している。

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、単元を貫く課題解決的な学習に向けて、「平家物語」では、振り返りカードを参考にして、1年生の時に学習した歴史的仮名遣いについて振り返るとともに、声に出して読み味わい、登場人物や作者の思いに触れさせる。「仁和寺にある法師」においては、兼好法師が仁和寺の法師の失敗から得た教訓は、どんなものであるかを読み取らせる学習を行う。

本校の研究の柱である「見通す・振り返る」に関しては、単元を貫く課題解決的な学習に向けての見通しをもたせ、知的好奇心を刺激するとともに、スモールステップで「できる。」「やれている。」等の達成感を味わわせたい。また、自己評価カードに記してある「古典を読むにあたって重要なこと」に目を通し、ゴールに到達するために有効な手段を生徒に考えさせたい。

3 単元の目標

- 「徒然草」に表れた兼好法師のものの見方や考え方に触れ、兼好法師から人生訓を学ぼうとしている。
【国語への関心・意欲・態度】
- 「徒然草」に表れた筆者のものの見方や考え方を理解し、自分の知識や経験と関連付けて考えることができる。
【読むこと】
- 「徒然草」に表れた兼好法師のものの見方や考え方に触れ、筆者の考え方と現代とのつながりを想像し、考えることができる。
【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 指導計画（兼好法師から人生訓を学ぼう：5時間扱い 本時2/5）

次	時間	学 習 活 動	「徒然草」他章段 並行読書
一	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「徒然草」から教訓を紹介し、「徒然草」「兼好法師」と出会う。 ・「仁和寺にある法師」に表れた、仁和寺の法師に対する兼好法師のものの見方や考え方について想像し、自分自身の経験と関連づけて考える。(本時) 	
二	3	<ul style="list-style-type: none"> ・並行読書した補助教材の中から1つ選び、筆者のものの見方や考え方を読み取る。 ・「兼好法師から人生訓を学ぼう」づくり。 ・作成した「兼好法師から人生訓を学ぼう」を交流する。 	

5 本時の指導について

- (1) 目標** 「仁和寺にある法師」に表れた、仁和寺の法師に対する兼好法師のものの見方や考え方について想像し、自分自身の経験と関連づけて考える。

(2) 評価規準

観 点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手だて
読む能力	「仁和寺にある法師」に表れた仁和寺の法師に対する兼好法師のものの見方や考え方について、自分自身の経験と関連づけて考えようとしている。	「石清水八幡宮」「極楽寺」「高良神社」の位置関係が書かれた、ヒントカードを用意する。
言語についての知識・理解・技能	「仁和寺にある法師」に表れた教訓に対する兼好法師のものの見方や考え方を想像している。	「仁和寺にある法師」の現代語訳を用意する。

(3) 指導の構想

- ・「見通す」：兼好法師から人生訓を学ぶために、仁和寺の法師が犯した失敗に対する、兼好法師のものの見方や考え方について想像するためには、どのような方法や手だてが有効か見通しをもたせる。
- ・「振り返る」：人生訓を学ぶために、兼好法師のものの見方や考え方のおもしろさについて、現代語訳を参考にして考えさせる。
- ・「自己評価カード」：兼好法師のものの見方や考え方について、自分自身の考え方と比較し、共感したことや相違点、おもしろさについて書かせるとともに、次につながる方法を蓄積させる。

(4) 展開

段階	学習活動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆「見通す・振り返る」活動
導入	1 前時の学習を想起する。	全	○前時を想起させ全体で1度音読させる。
	2 本時の学習の見通しをもつ。	全	☆本時の学習の見通しをもたせる。(学習シート)
	3 本時の学習課題を確認する。	全	○学習シートに学習課題を書かせる。
5分	兼好法師から人生訓を学ぶために、仁和寺の法師が犯した失敗に対する、兼好法師のものの見方や考え方を想像しよう。		
展開	4 課題に迫るための方法を考え、見通しをもつ。	全	☆「扇の的」での学習を想起させ、使える方法がないか振り返らせる。(自己評価カード) ・「扇の的」の登場人物のそれぞれ置かれた立場など ・法師の「目的」「行動のズレ」「置かれた立場・状況」「考え方」「言動」に注目して読ませる。
	5 仁和寺の法師が犯した失敗について考える。 ・口語訳を確認する ・「石清水八幡宮」「極楽寺」「高良神社」の位置関係を確認する。	個 ↓ ペア	○「石清水八幡宮」「極楽寺」「高良神社」の位置関係が書かれたヒントを与えながら考えさせる。 ○口語訳を確認し、あらすじを読みとらせる。
	6 仁和寺の法師は、なぜ失敗してしまったのかを読み取る。	個 ↓ ペア ↓ 班 ↓ 全体	○ここでは、なぜ失敗してしまったのか理由を考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">理由</div> ・ひとりで参拝に向かったこと。 ・コミュニケーションが不足していたこと。 ・独りよがりであったこと。 ・ガイドを伴わなかったこと。
	7 仁和寺の法師の失敗に対する、兼好法師のものの見方や考え方について想像する。 →兼好法師の人生訓(人間の生き方についての教え)	個	○兼好法師のものの見方や考え方について考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教訓</div> ・先人にわからないことを尋ねることは必要だ。 ・先達(その道に長ずる人)に尋ねることは大切だ。 ・先輩から学ぶことは大事だ。 ・詳しい人から聞くことは重要だ。
終末	8 本時の学習を自己評価する。	個	○本時の活動を自己評価するとともに、今後の学習で使える方法もメモするよう指示する。 ☆本時の学習の振り返りを行う。 ●【読むこと】【言語】(自己評価カード)
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・仁和寺の法師の失敗に対する兼好法師のものの見方や考え方について想像することで、筆者の人生訓について学ぶことができた。 ・何事においても、先輩から聞いたり、学んだりすることは大切なことであるということがわかった。 		
	9 次時の予告をする。		